

## 普及現地情報

## 神戸の果樹団地を守る～「クビアカツヤカミキリ」早期徹底防除～

2023年に特定外来生物の「クビアカツヤカミキリ」が神戸市西区のスモモ栽培園地で発見された。隣接果樹団地ではモモやウメが約8ha栽培されている。街路樹等のサクラでは被害が拡大しているが、早期徹底防除（成虫・幼虫の捕殺と成虫羽化期の農薬散布）により、被害園地外への拡散は2年間抑制されている。

## 背景

2022年に兵庫県では明石市で初めて発見された特定外来生物の「クビアカツヤカミキリ」は2023年に神戸市西区の果樹園でも確認された。隣接地に果樹団地があり、加害対象樹のウメ、モモなど約8ha栽培されており、まん延防止に早急な対策が必要とされた。

## 取組内容

- 1 初動対応** 生産者から「あやしい虫を発見し、ペットボトルで捕獲した」との通報を受け、早速現地で確認し、病虫害防除所や農業改良課に連絡の上、連携して対応した。園主とも今後の対策や対応を協議し、被害調査や防除対策等で園内に立ち入ることや、徹底した幼虫防除による羽化成虫の抑制をねらうことになった。
- 2 現状把握** 今後の被害拡大状況を把握しやすくするため、植栽図の作成と被害状況の落とし込みを行った。また、隣接する果樹団地の植栽図をまとめ、おおよその面積など整理した。
- 3 関係機関との情報共有と役割分担** 県や市の環境部局および農林水産部組織の情報共有と対応範囲や対策担当の役割分担を整理した。
- 4 生産者への現地対応** 防除対策は基本、園主に実施してもらった。さらに隣接する果樹園にまん延しないよう早期の徹底防除にむけた支援が必要であったため、普及センターが果樹園を対象とした防除対策の窓口となり、コーディネートした。防除効果を高めるため、被害状況の確認（写真1）や幼虫捕殺処理（写真2）、成虫脱出防止のネット被覆処理（写真3）について生産者や関係機関の担当者を対象に研修会を実施した。
- 5 対策の効果実証** 農業改良課や病虫害防除所と連携して国庫事業（消費安全対策交付金：病虫害の特別防除）を活用し、①成虫羽化期（6月中旬～7月下旬）の防除②幼虫の捕殺（周年）③ネット被覆（虫の産卵防止や羽化成虫の飛散を防ぐ）などの効果実証④対象害虫の啓発チラシの農家全戸配布など実施している。



写真1 フラス排出状況



写真2 被害部除去後幼虫捕殺

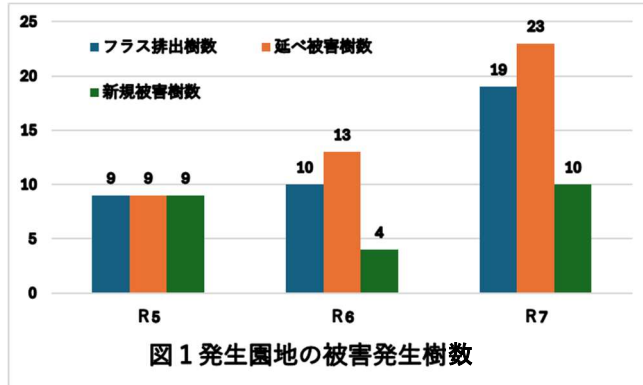


写真3 ネット被覆作業

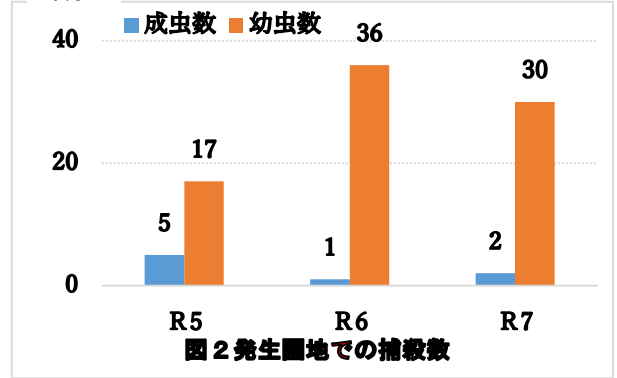
幼虫は大量のフラス（おがくずとフンが混じった物）を排出するので、確認しやすい。

幼虫対策は周年作業が可能であるが、活動期の4月～11月が適している。フラス排出部を徹底的に切除し、木質部に侵入した幼虫は先端を釣り針のように曲げた針金等で取り出し捕殺した。防除効果は1週間後に同じ部位からフラスの排出有無で確認できた。令和5年から実施した状況は下図のとおり。延べ被害樹数は増加しているが(図1)、幼虫を捕殺することで成虫の発生を抑制している(図2)。徹底した初期防除により被害園からの拡散は抑えられ、現在西区の他の果樹園に広がっていない。

(本)



(頭)



### 今後の方針

防除対策実証事業により継続して対策を実証する。ただ、果樹園では比較する対照区の設置が難しいため、街路樹等十分な管理ができない場所等の拡散状況と比較して効果を把握していく必要がある。地域内の果樹園への拡散防止のために初発園地での早期発見や生産者の知識習得の機会として研修会の開催など継続した支援を行う。

中谷 隆文 (農業大学校) (前神戸農業改良普及センター)